

# 文化財 やまと

大和町文化財保護協会発行



七 鈴 五 獸 鏡

## 文化財の保護と活用

——とくに文書について——

会長 佐藤 光 一

大和町では、東家資料108点を  
はじめ、明建神社文書57点、粟

飯原家文書24点、牧区文書132点、  
落部大坪家文書98点、古道則次

家文書99点、剣田代家文書44点、  
合計562点の文書類が郡上市重要

文化財に指定されている。何れ  
もこれまで大切に管理保存され

てきたものである。

言うまでも無く文化財は一度  
失われると、再生することが不

可能である。そのため保護と活  
用は大きな矛盾を背負わされる

ことになる。

以前は文書の保存と云えば、  
マイクロフィルムによる方法で

あった。大量の資料を1/10に  
縮小でき、紙よりも保存が便利

であることから、大きな施設で  
利用されてきた。しかし設備が

高価であり、利用にはマイクロ  
リーダーが必要であることなど

から一般には利用できないのが

現実である。

幸いITの普及により文書を  
比較的簡便・低コストでデジタ

ル化することが出来るようにな  
った。すなわち文書をPDFに

することにより、原文書を繰り  
返し利用することによる消耗を

防ぐとともに、いつでも何処で  
も、自由自在に利用できるよう

になった。今こそ消滅の危機に  
瀕している少なくとも宝暦騒動

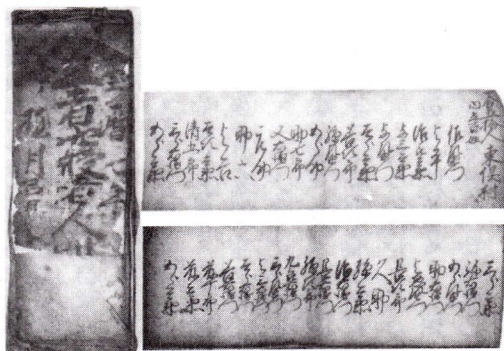
関係の文書を、現状で保存する  
ことに着手することが緊要であ

る。その上で、追々他の全文書  
も手がけて行かなければならな

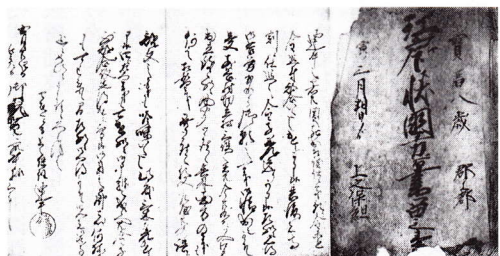
い。

とは言え、奉仕作業で総てを  
解決するのは無理である。予算

の裏付け等行政の理解と援助を  
切に望むものである。



①13.0cm×37.0cm



②15.0cm×22.0cm



③13.5cm×21.3cm

# 30年振りの能登半島

本川 喜代士

かつて、NTT華やかなりし頃、入社十年頃の中堅社員に慰勞出張のような今考えたと夢のような制度があり、他の同僚二人と共に、自分の有給休暇と併せて、三泊五日の能登半島一周ドライブ旅行を計画しました

今度の計画は、先頃完結した五木寛之氏の百寺巡礼、北陸編を参考にしたとの事ですが、いづもどうり見学場所やコースの選定など、幹事の方々の苦心が目に見えるようでした。

昨年同様、今年も桜の開花時期を見越して時期を遅らせたのに、莊川や白川では山の様な雪が片隅に寄せられ、四月も半ば

東京の渋谷、六本木を管内に受け持つ港地区に属していた私達は前夜の中に東名を出立、彦根で8号線に出て一睡もせず金沢に到着、ようやくたどり着いた憧れの地でした。そういう訳で、先日二日目の昼食後、千里浜から今浜まで8kmの海浜疾走は、私にとって32年振りに味わう至福の、そして色々な思いのこもった懐かしい一瞬でした。

だというのに、どこでも上着だけは手放せない風の冷たさでした。出発した頃は少し怪しい空模様でしたが、何人かの方が傘を購入して下さったお陰で、その後は申し分ない晴天続きでした。

156号線北の外れ近くの砺波市井波の瑞泉寺、本堂の建物は北陸随一の大きさだそうですが、お寺と共に彫刻が有名な町、ガラス戸越しに彫り師が作業し

ている店が何軒か有り、家々の軒先に看板が表札代わりに仏様や十二支などの動物が彫られた作品が並べられ、それらを見て回るだけでも楽しく、中には瀟洒な私設美術館もあって、最初からバスの短い見物時間ではとても足りない感じでした。

次いで高岡市の前田利長公菩提寺の瑞竜寺、一直線に並ぶ総門、山門、仏殿、法堂を回廊で囲む芝生の広い庭は、サッカー場のなかに建てたお寺という感じで、ほかには殆ど見られない鉛の瓦だとか、名匠といわれた棟梁の巧みの技など、加賀藩主の壮大さを象徴しているように

新鮮な魚で知られる氷見での昼食後、能登最古の真宗寺院、阿岸本誓寺、三大茅葺きの一つとい

われる屋根が遠くから一目で分かります。維持が大変

なので瓦にしてはとの声に、先祖が守ってきたものを私共で絶やすことは出来ないとの門徒の意見に従ったとか、5月の花祭りのパレードに使う白象のハリポテが、片隅に大事そうに置かれてるのが目を引きました。

茅葺きにマツチするかのようには本堂の石段は見事に苔むしており、上り下りするの気が引けるような、そんな感じでした。ここでも過疎の問題は重く、茅葺き屋根が続くのは、後何年ぐらいなのでしょう？

30年前と今度の旅行と旅の目的が違うので、見物箇所が一致するのは総持寺と、朝市だけでしたが、総持寺で覚えていたことは殆どありませんでした。

なで瓦にしてはとの声に、先祖が守ってきたものを私共で絶やすことは出来ないとの門徒の意見に従ったとか、5月の花祭りのパレードに使う白象のハリポテが、片隅に大事そうに置かれてるのが目を引きました。

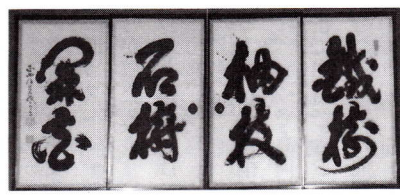
た。ですから今回は、山岡鉄舟の「鐵樹抽枝石樹開花」の襖一枚だけを覚えました。穴水から輪島へ抜けて、能登を横断しましたが、ここでも山の荒廃が気になりました。特に目立ったのは莊川から御母衣湖へ抜ける奥美濃の山々、昨年の台風の影響そのままでした。北陸道を始め道路網の整備で便利にはなりませんが、30年前と比べ日本は良くなっているのでしょうか？

自然の荒廃と共に、思いやりとか、恥じらい、奥ゆかしさなど日本人の美しい心が、少しずつ失われた様な気がします。

二日目は輪島の朝市から始まりました。ここだけは普通りの賑やかさでしたが、こじんまりと纏まってしまった感じで、粗野な田舎臭が失われた気がします。獲れたての烏賊がどんな色をしているか？ここで教えられた話の好きな元氣なおばさん達が、少なくなった気がして一寸淋しい感じでした。でも外と比べると値段だけは安く、しこたま買ひ込んだ発砲スチロールの荷物は重く、駐車場までの道はずいぶん長く感じられま



瑞泉寺山門



総持寺「鐵樹抽枝石樹開花」襖

した。

私の隣に座った方は、時どき、ワンカップや缶ビールを旨そうに飲んでいましたが、朝市のお土産はバスまで重いので、そのまま急便に頼んだそうです。

帰った翌日まで旅行の楽しさを味わったことでしょう。要領の良い利口な叔父さんでした。

気多神社参拝の後には、日蓮宗の北陸本山の妙成寺へ、この五重塔は独特な趣があり、色々な場所からも素敵なお眺めの多い境内でした。

午後に入って金沢市内へ、この春オープンした21世紀美術館から兼六園下を通る頃は、お天気と共に人も桜も満開、連



妙成寺庭園より五重塔を望む

休の様な華やかな気分でした。金沢中心部から一寸外れた野田山大乘寺、鳴らしてはいけない鐘を鳴らして怒られながら聴いた若い修行僧の初々しい説明が微笑ましく感じられました。

最後は、石川県に二つもある小松空港そばの那谷寺、私には初めての場所で、奇岩遊仙境の境内は階段、洞穴、崖が多く足の弱い方にはかなりきついコースだったことでしょう。散策路

終わり近くの楓月橋、鎮守堂から眺めた対面の山頂近くの赤松の枝振りは、何とも見事でありました。

以上が各地での所感ですが、ちよと残念だったのは、ガイドさんがいつもの方でなかった点です。後藤さんならば必ず前日に図書館で調べてきて、口数は少なくても、我々の意に添う説明をしてくれたはず、でも今度の柘田さんが駄目というのではありません。柘田さんは柘田さんなりの新鮮さが有りました。高速度のトンネルの長さベスト5など私の常識外の事でしたし、東海北陸の完成後のその占める位置や道路網の展開、展望

など、非常に興味を持たされた話題でした。お酒のつまみ珍珠ベスト3や、外国人の見た日本の庭園ベスト3など、一番美しい農村風景はどこなのでしょうか？ つい最近、琵琶湖を一周してきて朽木地方の柘田百選を探してきた身には嬉しい知識でした。泊まった宿でアスナロの

葉や挿し木を調達、希望者に配ってくれたのには喜んだ方も多かったでしょう。

それでも後藤さんを望むのは、私の贅沢な我が儘なのかもしれません。

ここで話を羽咋の海岸に戻させて頂きます。憧れの海岸のドライブを楽しみ、焼き蛤の味を充分堪能した後は、七尾、穴水經由で半島の突端、緑崎崎から当時も柘田の代表的なものときれたいた白米の千枚田、都心近辺ではとても考えられない海の水の透明さに感激した能登金剛などを廻り、帰路に就きました。その後3人は勤務先も代わりバラバラになって何年も会って居りません。N T Tの変遷と共に、時代のスピードに追われ

た3人の中では、私が一番境遇が変わりました。羽咋からわずか半日ぐらしかかからない岐阜の山奥の家の故郷に「終の棲家」を見付けるなんて、当時は夢にも思っていない事でした。

早いものでこの地に來させていただいてもう10年、この4月で私も古希を迎えさせて頂きましたが、年齢も代が変わるとガクンと体調に変化を來たし、足

元、手先、口の周りなど、老化が進んだようで一寸気になりました。看護する身がいつのまにかされる側になる、佐江衆一の

「黄落」の世界。長生きする老人が益々肩身が狭くなるそんな最近の世相等とも併せて、羽咋のドライブウェイでの感慨は、一言では説明できない色々な想いが去来しました。元気な体調を維持するには、毎日のウォーキングの積み重ねが大事な様ですね。そして元気な運転が出来るのも70代のうち、思う存分走り回る積もりです。夕食後、バスの最後は例によつて高田好胤さんのテープ、お月さんのウサギの話といつても

甘やかされてるばかりで、本当の優しさや厳しさが欠けている現代の子育てについて諄々と説かれる好胤さんのゆっくりとした話に併せるかのようなスピードで、158号線をトラックや他の車に追い越させて、我々のバスはたんたんと走ってくれました。この原稿を書いている最中、

都会では、100kmを超えるスピードを出した電車が脱線、107名の犠牲者を出したり、パリ郊外や、数年前、私も走破したところのある磐越道ではバスが

横転したりと、そういうことを思うにつけ、若いのに安心して運転を任せられるドライバーに頭の下がる思いです。

幹事を代表しての最後の有代さんの挨拶は、失礼ながら年々上達されるようで、短い話の中の心のこもったスピーチは、単なる拍手だけでは申し訳ない様な思いました。幹事の方を始めお世話いただいた何人もの方、そして楽しい旅行に気を遣って頂いたお一人お一人に御礼したい気持ちです。本当に有り難うございました。

## 大和町に多大な貢献

# 故東胤駿氏を偲んで

平成17年2月19日、大和町の歴史、文化を生かした町づくりにも多大な貢献をしていただいた東胤駿氏が永眠されました。

東胤駿（とうのたねたけ）氏は三〇

〇有余年にわたり、郡上の中心地として栄えた中世山田の庄の初代領主東胤行から数えて、第27代目のご当主でありました。

胤駿氏と大和町のかかわりは、昭和52年にブラジル在住の

ご長男の一時帰国にあわせ、横浜市から郡上をお訪ねになった時からでした。

その後、明建神社七日祭りに毎年来ていただき、当町との関係は親密になっていきました。

当時、大和村では村史の編纂が進められており、この過程で東氏の歴史資料が、小田原図書館に預けられていることが分か

た。

本日、この晴れやかな式典の席にお招きいただきまして誠にありがとうございます。なお、お祝いのご挨拶をすることになりましたことは、わたくしにとりまして大変に光栄なことと存じております。

実は3年前に、私は大和町が大和町になりました。このことがきっかけになって、東家に代々家宝として受け継がれてきた古文書を、大和村へ寄託するという約束がなされました。

その後、歴史民族資料館の建設を機に、昭和62年3月、貴重な東家資料を大和町に寄託され、さらに、平成6年には資料の全てを大和町に無償で寄贈いただきました。

胤駿氏は古の東氏の故郷、大和町の大自然のなかでの生活を希望され、平成10年秋からは主たる居所として大和町牧で生活され、平成11年8月には、住所も大和町に移されて、名実ともに大和の住人となられました。

以下は、私が東家の当主としておられたときの存在してあります。一つの大きな問題があると思うのでございます

が、このことはあまりにも大きく、この町でも、どこでもうたわれておられない。このことは今日の式典とは関係ないわけではございませんが、ともかくこのことは一言申し上げておきたいと思うのでございます。

それは何かと申しますと、元禄5年に東の幼少の常久が亡くなりまして、これが7歳で不幸な死を遂げたのでございます。で、本来ならば、後継者が無かったならば、当然お取りつぶしという段階に入るはずであります。

ところがその時に、ご当地の皆様方のご尽力がありまして、東氏遠藤家は再興いたしました。近江の三上の一万石の城主になったのでございます。で、この遠藤家再興と言うことは、これは非常に重大な事であったと思うのであります。これはおそらく不可能なぐらいの難しい問題であったと思いますが、それを当時の皆様方の嘆願によりまして、成し遂げられたという事でございます。これが後に、浅野家の問題がありまして、大石内蔵助が、主家の再興を第一

の目的として願ったのであります。これは原因が原因であるだけに望みが達せられないで、仇討ちに変化したものと私は考えますが、そのお家再興の二本となったのが、この、遠藤家の元禄5年の再興であったと、私は考えるものでござい

ます。その意味において、私は非常に感謝を皆様に捧げておるものでございます。それから後、直接のご縁は絶たれてまして、三〇〇年経たわけでございます。

私は東家の生まれではございませんで、他家から養子に入ったものでございます。昭和7年に養子縁組になりました。この時に、先代の胤禄（ねよし）は、私に、お前に譲つてやるものは東と言う姓と、娘と一つはこの古文書であると、これだけしか譲る物は無いと言われました。で、当然私は、学校を出たての若者でございましたが、すぐ、私は、望んでおりました職業に就いたのでござい

ます。これは、私は、明治の丙午

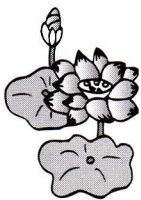
の年の生まれでございまして、生まれた時から馬好きで、宮内庁の御料牧場のニーカップ牧場に就職いたしました。そこで、電気のない生活を家内共々8年暮らしまして、5人の子供をもうけました。それから、戦争末期に、先代の胤祿は、昭和19年5月にみまかりまして、私が27代目を継がねばならんことになりました。そこで、私の家に、一つはこの古文書が残ったわけでございます。その後、箱を開けてみますと、次から次へと30数点の古文書が出てきました。が、ほとんどが重要な書類ばかりでありました。これは大変な物だと言われ、これはおろそかに私の家に置いて、間違いが起こったら大変だと思ひまして、小田原図書館の館長さんにお願ひして、お預かりをいただいたのでございます。これが、昭和40年頃のことでございます。これも、お役所のことでございますので、館長さんが変わられますと、これがどうなるか分からない。非常に不安定な状態になっておりましたので、何とかしなければならぬと、私も苦慮

しておったわけでございます。たまたま、それまで音信不通になっておりました、この大和町と私との間に、一つの繋がりがあったのでございます。それは、昭和37年に、この古文書が小田原に預かつてあるというのか、これは私にはよくは分かりませんが、けれども、とにかく私の所へ、見たいということ、皆様がおいでになりました。ご覧くださったわけでございます。この時に、私はもともとこの古文書の出発点はこの大和町にあるのだから、これはぜひ、大和町にお預かり頂いて、大事にして頂くことが一番良いのではないかと、このことを考えまして、その後、ここに、こちらに伺いました折りに、以前の山下町長さんと色々お話をした結果、この資料館の問題が浮かび出てまいりました。その後、大きな雪害や風水害の関係から予算がでさなくて、延び延びとなりましたけれども、ともかく、ここで立派な資料館ができあがり、誠に嬉しいこと、早速、でき

あがると同時に、お預かりを願う約束を果たした訳でございます。で、これは勿論、大和町に差し上げてしまってもいいものではないと思ひますけれども、こういう文書というものは、やはり、その跡を継いでいる者が存在する限りはその者の所有になつていふことが一番重要なのだということをお聞きして、おりましたので、私が所有者であり、保管は大和町の皆様方をお願い申し上げるということに、考えを相談して決めまして、今日に至つた訳でございます。これが、この史料がこの町にお願いする経過でございます。ただ、この古文書がいかにして私の代まで無事に移つてきたか、これは誠に不思議であります。

それから跡を継ぎましたのは、戸田家から夫婦養子で入り、いわゆる戸田遠藤でございます。これも、家も非常に固い家でございます。年々、先祖の菩提を弔いに使者をこちらに立てておつたという話しを聞き、それで、遠藤家とこの町とのつながりはずつと幕末まで続いておりましたのですが、何と言つても、この戦争の間、めっちゃめちゃになりました。ついに連絡が途絶えておつたのでございます。で、これがまた天の助けのように繋がりができました、お願いができました。これは、私も、この土地に対するお礼の一端をいささかながら果たし得たという気持ちでございます。ここで、この保管ということ、私の手から町の皆様へお願いを申し上げておかなければならないと思ひます。で、幸にして、その取り扱いには必ずしも立派な取り扱いをしてきたわけはないのでありますが、ほとんどの虫食いの跡もございませぬ。ほとんどの物が無傷に近い状態でおります。これは後ほどご覧になればお分かりになることと存じます。で、この状態は七〇〇年から七五〇年続いておるわけでございます。から、また、これから先も何十年、何百年と続くものでございませぬので、その点は一つ皆様方にお譲りをいたしたいと存じます。

で、私の考えとしては、最早東家もまた、いつどうなることか分かりませぬし、どういふものが生まれ出て来るかも分かりませぬので、私といたしましては、この町にお預けをしているという形ですが、本来は、心の内ではもうお預けつばなしにするつもりでございます。ま、そういうことで、一つ皆さん方には、今後共に、この古文書はご保存していただきたいと願ひ次第でございます。これをおもちましてお慶びの言葉にかえさせて頂きたいと思ひます。



平成16年度

# 事業報告

4月21日(月) 執行部会 (年間事業計画画当について)

「文化財やまと」編集委員会

原稿依頼について

5月27日(木) 執行部会、役員会提出議題について

「文化財やまと」編集委員会

6月10日(木) 監査会、役員会

平成15年度会務・決算報告について、平成16年度事業計画・予算案について、平成16年度総会について、会費徴収について

29日(火) 平成16年度総会

会報「文化財やまと」発刊 (発行部数400部)

郡上市文化財保護協議会第1回理事会

同日 執行部会

7月1日(木) 郡上市文化財保護協議会町村文化財めぐり (高鷲町、参加者35名)

19日(月) 第2回役員会

郡上市文化財保護協議会町村文化財めぐり (高鷲町、参加者35名)

東氏館跡庭園池泉清掃・阿千葉城跡清掃・明建神社桜並木施肥 (参加者45名)

8月7日(土) 七日祭・薪能 (東庄町郷土史研究会4名来訪)

10月8日(金) 研修部会

執行部会

18日(月) 第3回役員会 (秋季日帰り研修・文化財収蔵展示館等について)

11月10日(水) 秋季日帰り研修 (西濃の文化財を訪ねて、参加者42名)

12月6日(月) 執行部会

第4回役員会、事業・会計中間報告、懇親会その他

1月15日(土) 25日(火) 「文化財くじょう」の編集、発行

研修部会 (16年度1泊研修について)

執行部会 (16年度1泊研修、役員改選について)

第5回役員会、16年度1泊研修、役員改選について

(一)16年度1泊研修は4月13日(水)～14日(木)に実施する。

(二)役員は全員留任する。

以上2点を決定する。

3月8日(火) 郡上市文化財保護協議会第2回理事会 (郡文セ41会議室)

4月13日(水) 平成16年度1泊研修の実施 (越中・加賀の文化財をたずねる。参加者44名)

平成17年度

# 事業計画

5月14日(土) 執行部会 (年間事業計画画当について)

執行部会、役員会提出議題について

「文化財やまと」編集委員会

原稿依頼について

5月19日(木) 第1回郡上市文化財保護協議会理事会

30日(月) 監査会、役員会

平成16年度会務・決算報告について、平成17年度事業計画・予算案について、平成17年度総会について、会費徴収について

6月17日(金) 平成17年度総会

会報「文化財やまと」発刊 (発行部数400部)

7月1日(金) 執行部会

19日(火) 第2回役員会

郡上市文化財保護協議会町村文化財めぐり

東氏館跡庭園池泉清掃・阿千葉城跡清掃

七日祭・薪能

8月5日(水) 郡上市文化財保護協議会「秋の文化財探訪」

10月7日(木) 6日(木) 研修部会 (秋の日帰り研修について)

8日(土) 研修部会

11日(火) 第3回役員会 (秋季日帰り研修・文化財収蔵展示館等について)

18日(水) 執行部会

12月5日(月) 秋季日帰り研修

16日(金) 執行部会

第4回役員会、事業・会計中間報告、懇親会その他

※以下期日未定

研修部会 (17年度1泊研修について)

執行部会 (17年度1泊研修、役員改選について)

第5回役員会、17年度1泊研修

17年度1泊研修の実施

◎以上のほか、本会の活動に合致した展覧会・発表会等には、協議の上でできるだけ参加する。

# 會員名簿 (順不同)

## ■劍

山下運平顧問 八八―二四〇六  
 旗 勝美顧問 八八―二〇三一  
 村瀬喜八 八八―二二二八

## ■大間見

河合俊次理事 八八―二二四六  
 小池久江理事 八八―二五七六  
 山下ふみえ 八八―三三二七

加藤正恵 八八―二一〇七  
 高橋 明 八八―二四八八

加藤文藏 八八―二八〇二  
 佐藤光一会長 八八―三二〇一  
 佐藤八重子 八八―三二〇一

田中和久 八八―二二〇〇  
 高橋義一顧問 八八―三三九二  
 高橋叙子 八八―三三九二

河合 恒 八八―二三五八  
 河合芳英 八八―二二〇四  
 加藤小次 八八―二三二九

森前とし子理事 八八―三四七九  
 新藏 守 八八―二三七五

岩崎扶美子 八八―三三五一  
 河合利雄理事 八八―三三二〇  
 河合美弥子 八八―三五二〇

山内 博 八八―三三八六  
 山内悦子 八八―三三八六  
 河合善吉 八八―二一〇三

小池祐二 八八―四〇六四

林 千里 八八―三三三三  
 佐藤公子 八八―二一六一  
 山下妙子 八八―二四〇五

山田ひとみ 八八―二七三六  
 日置節子 八八―三四〇二

村井正藏 八八―二三二三  
 大野一道理事 八八―二二三〇  
 大野紀子 八八―二二三〇

野田英志 八八―二二八五  
 清水一作 八八―三〇八六  
 池田充彦理事 八八―三〇九〇

小池圭子 八八―四〇六四  
 桑田渥見 八八―二四四六

黒岩弘美 八八―二四五八  
 井俣赫美 八八―二七五八

井俣初枝 八八―二七五八  
 青地正男理事 八八―二四四七

大井静子 八八―二三三八  
 大井正明書記 八八―二八九四

大井次子 八八―二八九四  
 井上妙子 八八―三五〇八

沢原 勝 八八―三三二〇  
 沢原美幸 八八―三一五〇

山田武司 八八―二四七五  
 山田和美 八八―三六三一

旗 清子理事 八八―四一七〇  
 山田敬子 八八―三九一七

大井ともゑ 八八―二八九三  
 三輪孝子 八八―二七八二

桑田守夫 八八―二五一四  
 大中弘美 八八―三五〇六

大中春子 八八―三五〇六  
 鷺見 務 八八―二六五一

鷺見三津子 八八―二六五一  
 鷺見おと 八八―二一八九

矢野原幸子理事 八八―二〇七七  
 水野志づ子 八八―二六一〇

山内孝一理事 八八―二六一六  
 土松新逸会長 八八―二七三一

遠藤賢逸 八八―二二二一  
 遠藤富貴子 八八―二二二一

渡辺明夫理事 八八―二六九五  
 渡辺文子 八八―二六九五

木島三郎 八八―三五九〇  
 矢野原吉夫 八八―二一三九

村瀬弥一 八八―二六〇二  
 清水幸江 八八―二〇一九

清水美佐子 八八―二〇二一  
 前田 孝理事 八八―二二〇一

岩谷千代子 八八―二二一一  
 尾藤 清 八八―二二四七

尾藤元子理事 八八―二二四七  
 岩谷敏子 八八―二〇六三

森 忠敬 八八―二〇八三  
 白田宝徳 八八―三三七〇

羽生 清 八八―二二七一  
 山田真人会長 八八―二二一四

山田正代 八八―二二一四  
 金子政子 八八―三四二六

滝日準一理事 八八―二七〇五  
 滝日美代子 八八―二七〇五

栗飯原常人 八八―二三六二  
 日置貞一 八八―二六六二

土松貞二 八八―三九八〇  
 日置 昇 八八―三三三六

遠藤千津子 八八―三六三七  
 遠藤光平 八八―三九八一

遠藤周一 八八―二八九〇  
 滝日義一理事 八八―三〇六二

滝日和子 八八―三〇六二  
 滝日 治 八八―三四〇六

滝日敬子 八八―三四〇六  
 田口勇治監事 八八―三九五〇

加藤一男 八八―二八七〇  
 日置元衛 八八―三四一七

本田欽一理事 八八―三一六〇  
 野田嘉明 八八―三〇四三

尾藤佐紀子 八八―二三五三  
 遠藤甲子男 八八―三九三五

早瀬ふみ子 八八―三三二七  
 日置康夫 八八―三七八八

国居利男 八八―三四八二  
 日置清子 八八―三六三六

日置貞子 八八―三一二〇  
 日置貞子 八八―三一二〇

鳥崎増造監事 八八―二二三六  
 増田洋子 八八―四〇四一

寛 政之助理事 八八―四〇三一  
 中山周左エ門 八八―二七二八

野田恵光 八八―四〇二七  
 細川 優理事 八八―二八六一

清水克巳 八八―二八六二  
 歳藤堅雄 八八―三九九九

有代真一顧問 八八―三三九一  
 有代紀子 八八―三三九一

有代和夫 八八―二二〇一

有代和夫 八八―二二〇一

有代和夫 八八―二二〇一

有代和夫 八八―二二〇一

有代和夫 八八―二二〇一

有代和夫 八八―二二〇一

有代和夫 八八―二二〇一

有代和夫 八八―二二〇一

有代和夫 八八―二二〇一

有代和夫 八八―二二〇一

有代和夫 八八―二二〇一

有代和夫 八八―二二〇一

有代和夫 八八―二二〇一

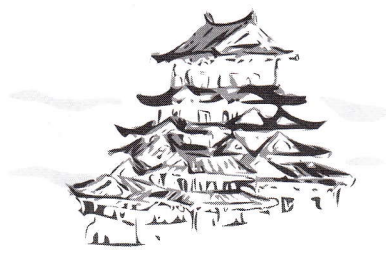
有代和夫 八八―二二〇一

有代和夫 八八―二二〇一

有代和夫 八八―二二〇一

有代和夫 八八―二二〇一

有代和夫 八八―二二〇一



- 森下正則 八八一三四一三  
佐尾チドリ(兼重) 八八一三五四四  
■島  
森藤雅毅(兼重) 八八一二六八四  
山田長次 八八一三六四八  
森数雄 八八一二五五四  
田中篤 八八一二七九二  
奥田昌明 八八一二五二〇  
直井篤美 八八一二六二二  
雄野尚子(兼重) 八八一三五六四  
遠藤利雄(兼重) 八八一三五二六  
石井敏子 八八一二五〇二  
本川喜代士 八八一三三三三  
本川清子 八八一三三三三  
●平成16年度中の物故者  
平成17年2月2日  
山内喜久子さん  
謹んでご冥福をお祈りいたします。

平成16年度 決算書

(収入の部) △印は予算額に対しての増加額 (単位: 円)

項目	予算額	決算額	増減	摘要
前年度繰越金	29,305	29,305	0	
会費	1,603,000	1,574,000	29,000	
- 会員会費	303,000	273,000	30,000	正会員 2,000×126名 家族会員 1,000×21名
- 特別会費	1,280,000	1,285,000	△5,000	日婦研修高山 6,500×44名 泊研修新潟 40,000×34名
- 役員研修費	20,000	16,000	4,000	
助成金	100,000	100,000	0	郡上市助
寄付金	10,000	0	10,000	
雑収入	695	1	694	利息
合計	1,743,000	1,703,306	39,694	

平成17年度 予算(案)

(収入の部) △印は予算額に対しての増加額 (単位: 円)

項目	前年度実績	予算額	増減	摘要
前年度繰越金	29,305	70,766	△41,461	
会費	1,574,000	1,456,000	118,000	
- 会員会費	273,000	281,000	△8,000	正会員 2,000×130名 家族会員 1,000×21名
- 特別会費	1,285,000	1,155,000	130,000	日婦研修 8,000×35名 泊研修 25,000×35名
- 役員研修費	16,000	20,000	△4,000	役員研修費 1,000×20名
助成金	100,000	90,000	10,000	郡上市より
寄付金	0	10,000	△10,000	
雑収入	1	234	△233	
合計	1,703,306	1,627,000	76,000	

(支出の部) (単位: 円)

項目	予算額	決算額	増減	摘要
会議費	40,000	35,555	4,445	
- 総会費	20,000	9,000	8,220	講師料他
- 会議費	20,000	26,555	△16,555	年末役員会 会計監査
事業費	1,514,000	1,403,485	110,515	
- 特別研修費	1,400,000	1,299,992	100,008	日婦研修 42名 泊研修 44名
- 会報発行費	90,000	67,250	22,750	400部
- 事業活動費	24,000	36,243	△12,243	郡上市内文化財めぐり 奉仕作業
事務局費	20,000	10,000	10,000	
- 消耗品費	5,000	6,750	△1,750	
- 通信費	5,000	3,250	1,750	
- 旅費	10,000	0	10,000	
会費(県・市)	84,000	84,000	0	県 64,000円 市 20,000円
積立金	60,000	80,000	△20,000	重要史料出版基金の積立
予備費	25,000	19,500	5,500	東氏葬儀生花代
合計	1,743,000	1,632,540	110,460	

(支出の部) (単位: 円)

項目	前年度実績	予算額	増減	摘要
会議費	35,555	20,000	15,555	
- 総会費	9,000	10,000	△1,000	
- 会議費	26,555	10,000	16,555	
事業費	1,403,485	1,400,000	3,485	
- 特別研修費	1,299,992	1,220,000	79,992	日婦研修 泊研修 役員研修
- 会報発行費	67,250	100,000	△32,750	400部
- 事業活動費	36,243	80,000	△43,757	市内文化財めぐり 奉仕作業等
事務局費	10,000	25,000	△15,000	
- 消耗品費	6,750	10,000	△3,250	
- 通信費	3,250	5,000	△1,750	
- 旅費	0	10,000	△10,000	
会費(県・市)	84,000	84,000	0	県 64,000円 市 20,000円
積立金	80,000	60,000	20,000	重要史料出版基金の積立
予備費	19,500	38,000	△18,500	
合計	1,632,540	1,627,000	5,540	

収入 1,703,306 - 支出 1,632,540 = 70,766円  
(次年度へ繰り越し)

平成16年度の歳入・歳出経理について監査を行った結果、適正に処理されてきました。

平成17年5月30日  
監事 田口勇次 島崎増造

● 編集後記 ●

◇第30号をお届けします。会報には歴史資料館オープン時の東胤駿氏のあいさつをお載せしました。録音テープからは、在りし日の胤駿氏の人柄や大和町への想いが切々と伝わってきました。重ねてお悔やみを申し上げます。

◇何年か前に、メキシコの人口約20万の銀製品で有名なタスコ市に2週間ほど滞在しました。

市の要人達からは、なぜ先進国の日本からこのような田舎町へ来たのかと質問され、最初は答えるのに窮しました。しかし、午前、午後、夜の3部制の小学校で、粗末な学習環境や教具で学ぶ子ども達の生き生きとした目や、自分が学ぶ時間帯を選び、家計を助けるために働いている姿を見たとき、答えが出てきました。失ないつつある私たちの生活の原点を学び直すということでした。

◇佐藤会長が郡上宝暦騒動について記した古文書『金氏苛政録』の原文と解説文・書き下し文を併せたCDを制作し発表されました。(ま)